

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
理事長 住野 勇 殿

2015 年度在宅医療助成（後期）指定公募①
「市民の集い開催への助成」完了報告書

<公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成による別府市民の集い>
テーマ：『在宅医療』知っていますか？一家で最期まで療養したい人に一

提出年月日：平成 28 年 10 月 27 日

申請者氏名：佐藤 弥生

申請者所属：公立大学法人 大分県立看護科学大学広域看護学講座 保健管理学

1. はじめに

平成 27 年に別府市が公表した資料によると、市が抱える健康課題として、①男性の健康寿命が短い（県内 18 市町村中、18 位）、②がんによる死亡者が多い、③壮年期男性の死亡が多い、④生活習慣病の重傷者が多いということが挙げられています。これらの点と、高齢化率が 31.2%という現状から考えると、今後在宅療養の対象となり得る人は益々増加することが予測されます。一方で、別府市では在宅療養支援診療所（人口 10 万人あたり）や各種在宅サービスの数は全国平均を上回っていますが、在宅での看取りはまだまだ少ないのが現状です。

そこでこの度、貴財団の助成を受け、一般社団法人湯のまち訪問看護ステーション管理者である小野朱美さん（訪問看護認定看護師）との共催で、市民の方々が“在宅療養”をイメージでき、“最期を迎える場所”として在宅の場を選択肢の中に位置付けてもらえることを期待して“別府市民の集い”を開催いたしました。

2. 開催までの主な広報活動

3 月	別府市へ後援の依頼
	大分県立看護科学大学へ協力の依頼
5 月	別府市地域包括支援センター連絡会議で案内
	自治委員総会で案内及びチラシを配布
6 月	市内の医療機関、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等へチラシ発送
	市内看護学校へチラシ発送
7 月	市内民生委員へチラシ発送
	別府市訪問看護ステーション管理者会議で案内
8 月	別府市報へ広報記事を掲載、東部保健所地域保健課へ案内

3. 開催概要

1) 日時

平成 28 年 9 月 17 日（土）14：00～16：00

2) 場所

大分県ニューライフプラザ 多目的ホール

3) プログラム（別添）

（前半）基調講演

テーマ：本人・家族の思いに“寄り添う”支援を考える

講師：山本 幸子氏（別府市朝日地域包括支援センター）

（後半）シンポジウム

テーマ：“望む場所で療養生活を送ること”考えてみませんか？

4) 当日の運営協力者（受付、会場設営）

- ・湯のまち訪問看護ステーションのスタッフ
- ・大分県立看護科学大学保健管理学研究室の教員・大学院生
- ・別府市福祉保健部高齢者福祉課

上記の総勢 15 名の方がご協力下さいました。

6) 当日の参加者（運営協力者を除く）

75 名：内訳

一般	35 名
看護師	26 名
介護支援専門員	4 名
保健師	3 名
医師	2 名
介護福祉士	2 名
地域包括支援センター	2 名
福祉用具事業者	1 名

4. 開催内容

1) 基調講演

別府市朝日地域包括支援センターの山本幸子氏が、事例を通して、「自宅で最期を迎えたい（自宅で看取りたい、家で最期まで療養したい人）」を支える為に、本人や家族の不安・思いをどのように支え、地域包括ケアシステムの中ではどのような取り組みが行われたのか明らかにし、医療や介護に携わる人々の関わり方やサポート体制について伝えて下さいました。

2) シンポジウム

5名のシンポジストが、それぞれの立場から在宅療養支援について発表をして下さいました。また、在宅でご主人の看取りを経験なさったご家族の方もシンポジストとして、その時の経緯や思いを話して下さいました。

以下は 6 名のシンポジストの発表テーマと所属施設です。

- 「在宅生活を支えるためにヘルパーができること」・・・河野紀文子氏
(社会福祉法人ふくしサービスセンターたんぽぽ 管理者・サービス提供責任者)
- 「在宅医療へつなぐー急性期病院の地域連携センターの役割ー」・・・神田智恵子氏
(大分県厚生連鶴見病院 地域連携センター 看護次長)
- 「‘家に帰りたい、一緒に過ごせたら’と願う人たちを支える看護」・・・野田道子氏
(別府市医師会訪問看護ステーション 管理者)

- 「病気とともに家で生きる ー医師からみた在宅医療ー」・・・馬場欽也氏
(医療法人三和会 馬場医院 院長)
- 「ご本人やご家族の意向を大切にしたい在宅での看取り ーケアマネジャーの役割ー」
・・・湯野倫子氏 (グリーンコープケアプランセンター別府 管理者)
- 訪問看護、訪問診療の支援を受け、在宅でご主人を看取った経緯と思い
・・・訪問看護利用者様のご家族

5. 質疑応答の主な内容

1) 父親の介護をした経験のある一般参加者から、“入院をしたら3か月で退院と言われ5回病院を変った。その際、自宅で看るのなら入院はさせられないと言われた。なぜこのようなことになるのか”という質問が出ました。これに対し、基調講演者からは、「ご家族が困っていること」を入院先のソーシャルワーカーや病棟師長へ相談して欲しい、地域包括支援センターへ連絡をもらおうと自分たちが病院へ伺うことができる。ご本人やご家族の気持ちを常に確認しながら支援をする、気持ちが変わることは決して悪いことではない」という説明がありました。

また、参加していた医師からは、“3か月で退院”と言われたことについて、病床の種類や診療報酬等のシステムについて分かり易い説明があり、病院にある地域連携室へ相談をするようにとの助言がありました。

2) “自分の近所にも一人暮らしで支援が必要ではないかと思われる方がいるが、地域包括支援センターの方は、地域を視て回っているのか”という質問が一般参加者から出ました。これに対しては、基調講演者から「できるだけ民生委員さんと一緒に地域を回っているが、全員の方をとなると難しいところもある。地区ごとに健康教室等を開いて、情報を得る場の一つとしている」という説明がありました。

3) “がんの終末期にある方をどのように支えるのか、自分にはよくわからない”という一般参加者からの質問には、介護支援専門員、医師から訪問看護との連携による緩和ケア、家族の支援について説明がありました。

4) 看護師の方から“病院の役割として、今後レスパイト目的の入院を受け入れていくことを考えるが、一時的に主治医が変わる事への心配がある”という意見を頂きました。これに対して、介護支援専門員から「関係者間の必要な情報提供と十分な連携により、ご本人・ご家族が安心してレスパイト入院を利用することができる」という説明がありました。

6. 今後の課題

今後も市民の皆様が在宅医療や在宅での看取りについて、より分かり易く、丁寧にお伝えする場を持つことが大切だと考えます。より多くの方にご理解を頂くためには、コミュニティ単位の小規模な場を設ける方法が良いのではないかと考えます。そして

“地域の力”をより高めるために、このような活動を、在宅療養を支える様々な職種が、地域住民の皆様と協力して開催していけるよう、働きかけと支援を行うことを今後の自身の課題としたいと思います。

7. 開催を終えての感想

今回の集いでは、①より多くの幅広い年齢層の市民の方々にご参加頂きたい、②在宅療養者の生活を支えてきた（支えている）様々な立場の方々から、その現状を分かり易く市民の皆様にお伝えしたいという強い思いがありました。開催して、特に印象に残ったのは、シンポジストの一人である訪問介護の方の発表でした。医師や看護師、介護支援専門員と連携をしながら、がん終末期の一人暮らしの方の生活を支え、ご本人の望む最期を迎えた事例を、誠実で穏やかな言葉で伝えて頂きました。在宅で療養をするために必要な“生活を支える”訪問介護の役割と他職との連携がとてもよくわかる内容でした。様々な職種がそれぞれの専門性をつなぎ合わせながら支えることで実現する在宅療養を、これからも多くの方に伝えていきたいと思います。

<謝辞>

最後に、この会で在宅での看取りの経験をお話し下さったご家族様へ、心から感謝申し上げます。また、当日の運営にご協力下さった、湯のまち訪問看護ステーションスタッフ、別府市福祉保健部高齢者福祉課、大分県立看護科学大学保健管理学研究室教員及び大学院生の皆様方にも心から感謝申し上げます。

尚、この市民の集いは「公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団」の助成を受けて実施いたしました。

以上

❖公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成による別府市民の集い

『在宅医療』知っていますか？ —家で最期まで療養したい人に—

日時：9月17日（土）14時～16時

会場：大分県ニューライフプラザ（多目的ホール）
（別府市大字別府野口原 3030 番地 1 *ビーコンプラザ向かい）
*入場無料

【基調講演】

講師：山本 幸子 氏（別府市朝日地域包括支援センター）

（座長）小野 朱美

（湯のまち訪問看護ステーション管理者、訪問看護認定看護師）

【シンポジウム】

テーマ『“望む場所で療養生活を送ること” 考えてみませんか？』
（シンポジスト）

河野紀文子 氏（社会福祉法人グリーンコープふくしサービスセンターたんぼぼ管理者・
サービス提供責任者）

神田智恵子 氏（大分県厚生連鶴見病院地域連携センター次長）

野田道子 氏（別府市医師会訪問看護ステーション 管理者）

馬場欽也 氏（医療法人三和会馬場医院 院長）

湯野倫子 氏（グリーンコープケアプランセンター別府管理者・主任介護支援専門員）

在宅療養者様のご家族

（座長）

佐藤弥生（大分県立看護科学大学助教、訪問看護認定看護師）



主催者：佐藤弥生（大分県立看護科学大学助教）

共催者：小野朱美（湯のまち訪問看護ステーション管理者）

協力：公立大学法人 大分県立看護科学大学

後援：別府市

（お問い合わせ先）

大分県立看護科学大学保健管理学（佐藤）

Tel 097-586-4452

E-mail satoyayoi@oita-nhs.ac.jp

【基調講演】

(講師) 山本 幸子氏 (別府市朝日地域包括支援センター)

テーマ：本人・家族の思いに“寄り添う”支援を考える
ー在宅医療と介護の連携を通してー

(座長)

小野朱美 (湯のまち訪問看護ステーション管理者、訪問看護認定看護師)

【シンポジウム】

テーマ：“望む場所で療養生活を送ること”考えてみませんか？

(シンポジスト)

河野紀文子氏 (社会福祉法人グリーンコープふくしサービスセンターたんぽぽ
管理者・サービス提供責任者)

神田智恵子氏 (大分県厚生連鶴見病院地域連携センター次長)

野田道子氏 (別府市医師会訪問看護ステーション 管理者)

馬場欽也氏 (医療法人三和会馬場医院 院長)

湯野倫子氏 (グリーンコープケアプランセンター別府管理者・主任介護支援専門員)

在宅療養者様のご家族

(座長)

佐藤弥生 (大分県立看護科学大学助教、訪問看護認定看護師)

◆プログラム

- | | |
|-------|------------|
| 13:30 | 受付開始 |
| 13:55 | オリエンテーション |
| 14:00 | 開会挨拶 |
| 14:05 | 基調講演 |
| 14:55 | 質疑応答 |
| 15:00 | シンポジウム会場準備 |
| 15:05 | シンポジウム |
| 15:50 | 質疑応答 |
| 16:00 | 閉会 |





14:08

1 2021
2 2021
3 2021
4 2021
5 2021
6 2021
7 2021
8 2021
9 2021
10 2021
11 2021
12 2021